【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和7年6月5日(2025.6.5)

【公開番号】特開2023-128309(P2023-128309A)
【公開日】令和5年9月14日(2023.9.14)
【年通号数】公開公報(特許)2023-174
【出願番号】特願2022-32570(P2022-32570)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　1/00(2006.01)
Ｇ０２Ｂ 23/24(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　1/00　７１６
Ａ６１Ｂ　1/00　７１５
Ａ６１Ｂ　1/00　７１４
Ｇ０２Ｂ 23/24　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和7年5月28日(2025.5.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項３】
前記被覆部材の前記固定具が配置される側の面にはシール部材が設けられる、
請求項１又は２に記載の内視鏡。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
上記の先端硬質部は、先端硬質部の基端側に、湾曲部の先端湾曲駒が連結される環状連結部を備えている。このような構成の内視鏡では、挿入部の長手軸方向において、上記の環状連結部の基端（先端硬質部の基端）から先端硬質部の先端までの長さが「硬性長」と称される場合がある。以下、本明細書では、挿入部の長手軸方向において、先端硬質部の基端から先端硬質部の先端までの長さを「硬性長」と定義して説明する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
本発明の一形態によれば、被覆部材の固定具が配置される側の面にはシール部材が設けられることが好ましい。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７３
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００７３】
図１０に示すように、被覆部材１４２のビス１２６が配置される側の面、すなわち、被覆部材１４２の内周面にはシール部材１４８が設けられている。シール部材１４８は、本発明のシール部材の一例である。シール部材１４８としては、一例として、シリコン系のものが採用されている。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７４】
このように、被覆部材１４２の内周面にシール部材１４８を設ける構成を採用することにより、本例の連結部１４０は、被覆部材１４２の内周面と環状連結部１２０の外表面との間の隙間に水分が浸入することを阻止することができる。その結果、連結部１４０の水密性が更に向上する。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９０】
１０　超音波検査システム
１２　超音波内視鏡
１４　超音波用プロセッサ装置
１６　内視鏡用プロセッサ装置
１８　光源装置
２０　モニタ
２２　送水タンク
２４　吸引ポンプ
２６　挿入部
２８　操作部
３０　ユニバーサルコード
３２　送気送水ボタン
３４　吸引ボタン
３６　アングルノブ
３７　処置具挿入口
３８　コネクタ
４０　コネクタ
４２　コネクタ
４４　送気送水用チューブ
４６　吸引用チューブ
４８　内視鏡観察部
５０　超音波トランスデューサ
５２　先端硬質部
５２Ａ　基端
５２Ｂ　先端
５４　湾曲部
５６　軟性部
５８　湾曲駒

５９　先端湾曲駒
６０　湾曲操作ワイヤ
６２　超音波振動子
６４　先端側キャップ
６４Ａ　先端
６５　先端部本体
６６　外装構成部材
６８　フレーム
７０　観察系ユニット
７２　シールドケーブル
７４　鉗子管
７６　先端面
７８　処置具導出口
８０　観察窓
８２　照明窓
８４　ノズル
８６　対物レンズ
８８　プリズム
９０　撮像素子
９２　基板
９４　信号ケーブル
９５　鏡筒
９６　鉗子パイプ
９８　鉗子チューブ
１００　バルーン
１０２　装着溝
１０４　装着溝
１０６　供給口
１１０　バンド部
１１２　バンド部
１２０　環状連結部
１２２　環状連結部
１２２Ａ　基端
１２４　フランジ部
１２６　ビス
１２８　穴部
１３０　ビス
１３２　穴部
１３４　穴部
１３６　穴形成部
１３６Ａ　半円部
１３８　アングルゴム
１３８Ａ　先端面
１４０　連結部
１４２　被覆部材
１４２Ａ　先端部
１４２Ｂ　他の部分
１４２Ｃ　先端面
１４２Ｄ　基端
１４４　糸

１４６　糸巻き部
１４６Ａ　基端
１４８　シール部材
１５０　段差面
１５２　接着剤
１５４　隙間
１６０　先端硬質部
１６２　連結部
Ａ　長手軸
Ｂ　周方向
Ｌ　硬性長